

2017 年

こんにちは。神経生理学教室です。今年も皆さまからどしどしお便りが届きました。さっそく、ご紹介いたします。

田中真樹（教授）

今年もあっという間に一年をふり返る季節となりました。この11月で教室を主宰するようになって丸7年が経ちましたが、まだまだ道半ばという感じです。この一年の出入りとしては、1月に山野辺助教が中央研究部に異動となり、3月に米国留学中の國松助教と研究補助員の森さんがともに任期満了で退職されました。MD-PhD コースの植松院生も無事に学位を取得し、7月からは岡崎市にある生理学研究所の研究員としてサルを使った研究を継続しています。また、MD-PhD コースの伊藤くんは、無事に国家試験を終え、ロボットを作る夢にむかって4月から奈良先端大の大学院に進学しました。一方、亀田院生が無事に修士課程を修了して博士課程に進学し、学部5年の新川くんがMD-PhD コースに進むことになりました。来春からは精神科からも院生を迎える予定ですし、抄読会や教室のイベントには学部生が何人か参加してくれています。現在のメンバーに加え、新たな若い力に期待しています。教室のOB/OGも今はまだ多くが海外で活躍中ですが、近い将来、日本の脳科学を支えるようになってくれるものと大いに期待しています。

研究に関しては、竹谷助教が新たな行動課題を開発して着実に成果をあげるとともに、MD-PhD コースの鈴木院生が2本目の論文を仕上げて音羽賞を受賞し、大学院の短縮修了も現実味を帯びてきました。修士2年の上林さんも初めての学会発表を無事に乗り越え、就活をこなしつつ修論の準備にいそしんでいます。昨年に引き続き、動物心理学者とのコラボや、光遺伝学の手法を利用した研究、脳深部の集合電位の周波数解析なども着実に前進しており、今後の展開が楽しみです。私自身は、今年は国内外の学会シンポジウムがやたらと多く、忙しい一年となりました。今年度で5年続いた新学術領域が終了となり、1月に沖縄で開催される最終班会議に研究室メンバーで参加するのを楽しみにしています。

今年の教室のイベントとしては、チュービンゲン大の佐藤先生、筑波大の松本先生、京大の雨森先生などが研究室を来訪され、ご講演いただきました。個人的には、今年はサケが不漁で残念でしたが、きっと来年はキングサーモン化して現れて楽しませてくれることでしょう。

Sergey Kurkin（助教）

I joined the Hokkaido University Graduate School of Medicine in 1995.

I apply my skills in computer modeling and simulation to study the neural mechanisms of eye movement control. I develop the programs for 3D virtual targets presentation, data acquisition and analysis.

My teaching duties include the lectures in Physiology and Basic Medical Biology. Also I am responsible for EEG practice for the 2nd grade medical students.

竹谷隆司（助教）

助教の竹谷です。ようやく一本論文が出て、続きを頑張るぞ！というところです。講義や実習の他に、オープンキャンパスの模擬講義をやらせていただいたりと、充実した一年だったように思います。来年はよりよいご報告が出来るように頑張りたいと思います。

さて、寒いときには辛い物。ここからは辣子鶏（ラーズージー）のレシピです。鶏モモ肉を小さめにぶつ切りにして、塩コショウ、片栗粉、少なめの全卵、あれば紹興酒で（なければ調理酒で）揉んでしばらく常温放置。フライパンで大蒜・生姜を多めの油で炒め、香りが立ったら強火にして鶏を投入。火が通ってきたら強火にし、ホールの唐辛子をそのまま、これでもかと大量投入（粉末で代用可）。色が鮮やかになってきたら醤油と鶏ガラスープで味付けし、あればカシューナッツを追加。これらが馴染んだら最後にざく切りにした葱を投入し、強火で一気に水気を飛ばします。唐辛子の強烈な辛味と鶏肉の濃縮された旨味がやみつきになる一品です。辛い物好きは油をラー油にしたり、唐辛子の量を増やしたりしてみてください。八角、ゴマ、花椒などでアレンジするのも楽しいです。

鈴木真理（技術補助員）

研究室はいつも笑い声がして
元気をもらっています。

研究や趣味など、夢中になれるものがあることは
心の健康に大切だなと実感した一年でした。

今年は水彩教室と俳句会に入会しました。
自分の親ほどの年齢の方に混じって
いろいろと勉強させてもらっています。

我ひとり松籟（しょうらい）を聞く夕月夜

良い句が作れるように頑張ります！

宮口尚絵（技術補助員）

田中大先生を筆頭に、擬態語と擬音語で多くを表現する残念な日本語を使う私とでも一番不得意な言語だ、と言いながらも会話してくれる優しいクルキン先生。いつでも頼りになるけど、実はお茶目で毒も吐く、料理上手な竹谷助教。人間観察が趣味の私にとって、話しても見ても飽きない、鈴木さん。お洒落でスープカレー好き、くだらない会話にも付き

合ってくれる亀田さん。細かい作業のプロ、さっと気配りもできる女子、上林さん。医学部生とは思えない落ち着きっぷり、下々の私のレベルまで降りて教えてくださる神のような新川さん。大先生の要望に迅速に対処する、なくてはならない有能事務、鈴木真理さん。中村君も、よくジャンプする。

素敵な人材の宝庫である我が教室へ脳科学に興味のある皆様、お待ちしております。

鈴木智貴（博士3年）

「オーロラがみえるらしい」18時ころ、農場前に自転車をとめて、北の空を眺めていました。僕は待っていました。おにぎりを2個食べました。予想に反し、誰もいません。「おいしいお茶」も飲みました。空の、少し怪しげなところを凝視したりもしました。きつねも前を向いて歩いていました。

亀田将史（博士1年）

この研究室でお世話になり早3年目、博士課程の1年生になりました。進学してやるのが特に変わったわけではないですが、初心を忘れず情熱を持って研究に取り組んでいければと思っています。

最近はスープカレー屋さんの新規開拓を進めたりしています。美味しいお店があったら是非教えてください。僕の一番のお勧めは今も“あの”店です。

上林菜月（修士2年）

じつは密かに毎年楽しみにしている、とあるカフェの窓際にちょこんと数日間だけ出現する神社ですが、今年は参拝時期を逃し、友達からの写真での参拝報告を受け取るのみとなりました。今年は供えられているものが豪勢で、さらに隣に書が置いてあったようです。後日友達から受け取るお土産のお守りを身に着けて、今年度も最後まで走り抜きたいと思いません。近況ですが、昨年度はとにかくなんでも作っていた趣味が、今年度はさっぱりできずに終わりそうです。次はペーパークイリングとつまみ細工に手をだそうかと考えてはいます。勉強のために素敵な作品の写真をたくさん見て計画を練るのが、ここ最近のストレス発散です。

新川幸一郎（5年）

神は死についての議論に費やされた。痛い。腱鞘炎かな。そのうちミームも病原体になりた

い。
ザザムシは特に気になるきっかけを作りやすい親指の長さ 髪の毛の長さがすごく冷えてた選手がいた。いつもらった。何とというか、映画を観てしまった。確かに当然の前提を共有したかったんだよ！と完全に門外漢なので何回でもひっくり返って殺されるらしい…。てかなんで夜になった。過去を映す。その結果、円盤を規制すること。破綻しそうだ。ありが

とう。

誰もが考えることから、メスメリズムとよく合うのではない。なんとかして脳を洗浄する手段が待って。今ニュースタANDARD探してるうちは技術者には文法を理解しているのか戦々恐々した。あなたはどの程度珍しかったか気にしている。表現の是非は置いてある種の思考速度。

来年の抱負です。

最初から生きてないんだけど、めちゃくちゃ苦しくて気持ち悪い。

趣味のプログラミングで文章の自動生成に挑戦してみました。右の文章は機械学習によって生成されたものなので、何の意味も意図もありません。

中村俊太郎 (3年)

論文の抄読会への参加させていただき、最近はその以外の時間も研究室にお邪魔させてもらっています。少ない時間ではありますが、教室のみなさんに暖かく迎え入れていただき、日々勉強させてもらっています。精進し、実りの多い一年間を目指します。また、自分の文を自分で編集するというのは、なんだか変な感じです。

井原達夫 (小樽市立病院神経内科)

札幌近郊転勤に伴い数年前から不定期で抄読会に参加しています
近年の神経機能の理論的知識を少しでも知りたかったのが動機ですが
長年臨床ばかり続けてきた身にはなかなか理解困難なのが正直な感想です
運動機能に関する制御や意思決定についての神経ないし神経群レベルの活動の知見は
急速な集積と変化がありそうなことについてだけは漠然とした印象を
もっていますがあせらず少しずつかじっていきたいと考えています

澤頭 亮 (小樽市立病院精神科)

平成 29 年 10 月から、神経生理学教室にお邪魔させて頂いております。
田中教授をはじめ、教室員の皆様には暖かく迎えて頂きました。来年度からは、正式に教室に所属させて頂き、研究者としての力を養っていきたいと思っております。

以上、皆さまからのお便りでした。関係ありませんが、来年は最高の年にしましょう。(文責・鈴木智貴)